

## 多様性を尊重する共生社会を目指して

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会

会長 山中ともえ



8月1～2日に、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会のお力添えにより、令和元年度全特協の第56回全国研究協議会熊本大会を盛会のうちに終えることができました。「共生社会の形成に向けて、一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力をはぐくむ特別支援教育の推進と充実」を大会主題として、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 俵幸嗣様からの行政説明、熊本大学大学院教育学研究科教授 干川隆様から「ひとりひとりに応じた支援とそれを支えるシステムづくり」と題した講演、3分科会に分かれた実践報告による協議会等が有意義に行われました。猛暑の中、約550人の方々が集まり、実りある大会となりました。

さて、本協会は、昭和39年7月に発足して以来、特別支援教育の発展に寄与してまいりました。昭和39年と言えば、東京オリンピックとパラリンピックが開催された年でもあります。日本中がオリンピック開催を契機に国の発展を意識し、なお、障害者に対する施策も進んでいこうとする時期でした。そもそも「パラリンピック」という名称は、昭和39年の東京大会の際に日本で名付けられた愛称でした。そして、2020年には、再び東京でオリンピック・パラリンピックが開催されようとしています。この間、障害者に対する教育も大きく進展しました。東京オリンピック・パラリンピックの開催を目前にした、令和という新たな時代が始まるこの年に、私達、校長は、次の時代を見据えた特別支援教育を進めていく覚悟を新たにしたいと思います。

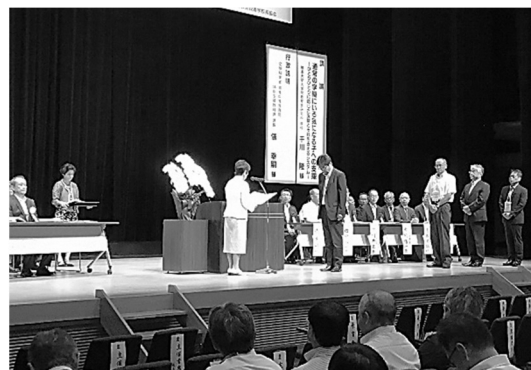
しかし、教員の専門性を向上させる体制が追いつかず、特別支援学級や通級による指導担当教員の特別支援学校教諭の免許状保有率が向上しない状況があります。この4月に示された中央教育審議会への諮問事項の中にも、「特別な配慮を要する児童生徒等への指導など特定の課題に関する教師の専門性向上のための仕組みの構築」が挙げられています。教員を育成し、特別支援学級や通級による指導の教育の質を高めていくことが喫緊の課題です。他にも、新学習指導要領への対応として、特別支援教育を社会に開かれた教育課程とすること、特別支援教育を学校のカリキュラム・マネジメントに位置付けていくこと、特別支援教育におけるICTの活用の推進、働き方改革として特別支援教育の体制を検討し直すこと等、新たに取り組むべき課題も明らかになっています。さらに、特別支援教育を進めるためには、児童生徒、保護者、地域に対し、多様性を尊重する教育を推進していくことも大切です。

本協会では、このような今日的課題の改善に資するため、「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブックの改訂版を、文部科学省の田中裕一特別支援教育調査官の監修の下、刊行いたしました。このハンドブック以外にも、平成29年には「合理的配慮のための授業アイデア集」、平成27年には「特別支援学級だからこそできること」などの本を発行しましたので、各地区で広めていただければ幸いです。今後は、通級による指導に関する事例集を発行する予定です。本協会のホームページでは、これらの書籍の案内とともに、毎年度実施している全国調査の結果等も掲載しておりますので、御覧ください。

令和の時代には、特別支援教育の発展とともに、社会全体が多様性を尊重する共生社会が実現されていくことでしょう。そのために、学校が果たす役割は大きく、各校長がリードしていく必要があります。本協会は、特別支援教育を推進していく立場の校長同士が互いに手を取り合う場として、一層力を尽くしてまいります。ご協力の程よろしくお願いたします。

## 第56回 全国研究協議会 熊本大会

熊本大会実行委員長 泉田 一博



令和元年度全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会第56回全国研究協議会熊本大会は、令和元年8月1日（木）2日（金）に、熊本県熊本市のくまもと森都心プラザ等で開催されました。

大会主題を「共生社会の形成に向けて、一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力をはぐくむ特別支援教育の推進と充実」とし、全国各地から520名を超える参加者を迎え、一步前進を合い言葉に外の暑さに負けないほどの熱い研究協議が行われました。

山中ともえ会長をはじめとする本部役員の皆様、全国理事及び全国各地から御参会いただいた校長先生方のおかげで、無事に熊本大会を終えることができましたことを、心より感謝申し上げます。

以下、大会の概要について報告いたします。

### [1日目 8月1日（木）]

<行政説明> 「特別支援教育行政の現状と課題」

文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課長 俵 幸嗣 様

1. これからの初等中等教育の在り方の検討
2. 特別支援学校・特別支援学級・通級による指導を受ける児童生徒の増加への対応
3. 教育と福祉の連携による切れ目ない支援について
4. 医療的ケアが必要な児童生徒の支援について
5. 病気療養児に対する支援について
6. 最近の文部科学省の取組

<講演> 「通常の学級にいる気になる子への支援」

— ひとりひとりに応じた支援とそれを支えるシステム —

熊本大学大学院教育学研究科 教授 干川 隆 様

通常の学級にいる気になる子への支援として、実際にケース会議を実施することで先生方が難しい事例にうまく対応できた経験から、会議を行うことの大切さや、今回の小中学校学習指導要領の中に明記された、個別の教育支援計画と個別の指導計画の重要性について話されました。子どもを中心に据えて、その子どもたちの夢や希望をかなえるために保護者や学校がともに連携協力することができれば、学校内の多くの問題を解決することができるであろうということ力を説かれました。

[2日目 8月2日(金)]

<実践報告・研究協議>

### 第1分科会 「校内の特別支援教育の推進を目指した学校経営」

実践報告1 「連続性、専門性、連携を核にした支援体制の構築に向けた取組」

鹿児島県鹿児島市立向陽小学校 吉嶺 梓 校長

実践報告2 「本渡中学校区における学びの連続性の確立」

熊本県天草市立佐伊津小学校 坂本 章 校長

この分科会では、支援体制の構築に向けた取組や幼保・小・中学校、そして、高校も視野に入れた学びの連続性に関する取組などを中心に報告がなされました。また、校内研修における職員の意識改革や組織として対応する力の構築、さらに、保護者との連携が特別支援教育の推進に重要であることを指導していただきました。

### 第2分科会 「特別支援教育の充実に向けた教職員の人材育成」

実践報告3 「特別支援教育を充実させるための校長の人材育成に関する役割」

宮崎県宮崎市立本郷小学校 原口 広司 校長

実践報告4 「特別支援学級における人員不足と

多様なニーズに対応するための人材育成」 ～八代市郡の取組み～

熊本県八代市立鏡小学校 竹原 欣哉 校長

この分科会では、人材育成という観点から、校内研修等を通じた職員の育成・特別支援教育コーディネーターの育成・関係機関（巡回指導員・支援学校等）との連携の中での育成等の報告がなされました。グループ協議では、人員不足もある中で専門的力量をもつ人材育成の急務、全員で特別支援教育に関わるという意識の高まりの必要性等の意見が出されました。

### 第3分科会 「関係機関との連携で進める特別支援教育」

実践報告5 「関係機関と連携した個に応じた支援体制の構築」

～それぞれのニーズに応じた合理的配慮～

沖縄県宮古島市立平良第一小学校 川上 尚栄 校長

実践報告6 「学校内外のネットワークの構築を通しての特別支援教育」

熊本県宇土市立網田中学校 谷口 育聖 校長

この分科会では、校内での支援体制の重要性、学校と関係機関との連携やネットワーク作り、外部講師の活用を通じた取組等が報告されました。グループ協議では、関係機関との連携を深めるための課題と方策や連携を推進する校長の役割について協議がなされましたが、行政（子育て支援課や児童相談所）等と連携するには校長が中心となる必要性があるとの意見が出されました。

<全体会・全体講評>

全体会では、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の田中裕一様から全体講評をいただきました。最後に閉会行事を行い、全日程が終了しました。

詳細につきましては、令和2年3月発行予定の全特協令和元年度研究紀要に掲載予定です。

令和元年度 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会  
第36回 関東甲信越地区研究協議会 千葉大会

1. 研究主題 「学校における一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」
2. 期 日 令和元年 11月15日（金）10:00～16:00
3. 会 場 千葉県教育会館  
〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央 4-13-10  
TEL : 043-227-6141 FAX : 043-227-4555
4. 日 程
  - (1) 開 会 行 事 10:00～10:30  
主催者挨拶 来賓挨拶
  - (2) 記 念 講 演 10:30～12:00  
演 題 「通常学級ユニバーサルデザイン・合理的配慮と校内外支援体制  
～新しい学習指導要領を踏まえて～」  
講 師 植草学園短期大学主任教授 佐藤 慎二 氏
  - (3) 実 践 発 表 13:00～15:00  
実践発表1 「多様な学びの場における指導・支援の充実を目指して」  
～いつでも どこでも 誰にでも 適切な指導及び必要な支援を～  
大網白里市立増穂小学校 根本 敦 校長  
実践発表2 「子ども一人一人のニーズに応じた校内支援体制の充実」  
～特別支援コーディネーターと教育支援会議を活用して～  
流山市立八木北小学校 平田 義高 校長  
実践発表3 「共に学ぶ特別支援教育を推進する」  
～学校経営の在り方～  
船橋市立南本町小学校 入江 浩二 校長
  - (4) 指 導 助 言 15:15～15:45  
前千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課課長  
特別支援学校流山高等学園校長 堀子 榮 様
  - (5) 閉 会 行 事 15:45～16:00  
次期開催地区代表挨拶 群馬県 理事

☆参加費は無料です。多数の皆様の御参加をお待ちしております。大会参加申込締切日は  
9月13日でしたが、参加申込をされる方は大会事務局まで御連絡ください。

※大会の詳細や申込用紙等は全特協のホームページにも掲載しております。

【大会事務局】千葉市立白井小学校 校長 木村圭一郎

〒265-0053 千葉県千葉市若葉区野呂町2 1 5

TEL 043-228-0211 FAX 043-228-2763

第3回全国理事研究・研修協議会の御案内

- ・期 日 令和2年1月30日（木）・31日（金）
- ・会 場 京都府 ホテル ルビノ京都堀川（京都府京都市上京区東堀川通下長者町下ル3-7）
- ・内 容 [1日目]  
全国副会長研修会 全国理事会 研究・研修協議会 行政説明 ブロック会議  
顧問・参与の会 懇談会  
[2日目]  
本部説明 教育機関研修・視察（京都府立城陽支援学校）

☆ 本年度最後の「全国理事研究・研修協議会」となります。御参加をお願いします。  
東京での定期総会及び熊本県での全国研究協議会に、多くの方々に御参加いただき  
ました。ありがとうございました。